

調査の概要

1. 調査目的

学生の生活の実態を調査することにより、正課教育および正課外教育の改善、学生生活の環境整備、大学運営および本学の将来計画の基礎資料とすることを目的として実施された。この調査は大学の自己点検・評価の一環として実施されたものであり、学生生活全般にわたる公式の調査は 2002 年度に次いで 2 回目である。

2. 調査内容

2002 年度の第 1 回調査と比較するために、前回の調査内容を踏襲して実施した。その内容は、入学選抜に関する事項、住居の様態、通学の様態、家族の状況、学生本人の経済状況、アルバイト、生活の状況、海外在住・旅行に関する事項、修学に関する事項、課外活動に関する事項、健康に関する事項、福利厚生施設に関する事項、進路、地域に関する意識の多岐にわたった。また、該当学生数が少なく、個人が特定されるおそれのある項目については、調査項目から除外し、または他の項目と合計して集計するなど、プライバシーに対する配慮を優先した。

3. 調査組織

学生生活委員会および前任の学生生活委員および協力教員 2 人によって集計した。

4. 調査対象および方法

本調査は、本学に在籍する学生のうち、休学者を除いた 397 人全員を対象として実施した。実施については各学科長および各学年の担任教員に協力を依頼した。調査票の回収は学務課が担当した。調査票は、無記名で記入し、封筒に封入して提出すること、回答および提出は学生の自由意志によるものであって強制ではないこと、調査票を提出しなかったことまたは記載内容によって学生が不利益を受けることがないことを明示して実施した。今回、はじめてマークシートによって実施した。

プライバシー保護の観点から学生数が少ない地域看護学専攻科学生（16 名）については、調査対象としなかった。

5. 調査対象日

2006 年 12 月 1 日を調査対象日として実施した。

6. 調査票の回収状況

調査票 397 通のうち 157 通が回収され、回収率は 39.5%であった。ただし、学科年次によってかなりのばらつきがあった（表 A 学科・年次別学生数と調査票提出者）。回収率が低下する要因として、調査期間中が、学外実習、就職・進学活動、卒業研究などによって学生の登校が必ずしも高くない時期であったことなどが挙げられ、今後の検討課題である。

7. 今後の課題

学生の実態を的確に把握するには、今回の調査結果を基礎に、今後定期的に調査を実施することが必要であるものと考えられる。その場合には網羅的な調査ばかりでなく、主題を定めた調査が必要であろう。

大学の概要

新見公立短期大学（以下「本学」）は、岡山県新見市および阿哲郡（両者をあわせて阿新地域という）内の 4 町（大佐町、神郷町、哲多町、哲西町）で設立した阿新広域事務組合が設置した公立の短期大学である。その後 2004 年度に地域看護学専攻科（保健師養成の 1 年課程）を設置、さらに阿新広域事務組合が設置する形態から、2005 年度に 1 市・4 町の合併によって新見市立に移行した。

本学は、1980 年に看護学科（三年制；入学定員 50 人）および幼児教育学科（二年制；入学定員 50 人）の新見女子短期大学として設立された。その後 1986 年に看護学科の定員が 60 人に増員され、1996 年に地域福祉学科（二年制；入学定員 50 人）が増設された。1998 年には、看護学科および幼児教育学科の男女共学化（地域福祉学科は翌年）にともない、大学名が変更されて現在に至っている。

看護学科は、看護師の養成を主たる目的とし、卒業時に看護婦国家試験の受験資格が得られる。幼児教育学科は、保育者の養成を主たる目的とし、卒業時に保育士登録資格を取得し、所定の単位を修得することにより幼稚園教諭 2 種免許状を得ることができる。地域福祉学科は、介護福祉士の養成を主たる目的とし、あわせて介護される人の生活環境・基盤としての地域の文化を学ぶことを目的としている。卒業時に介護福祉士登録資格および社会福祉主事任用資格が得られる。

地域の特徴

本学の立地する阿新地域は、岡山県の北西部に位置し、鳥取県と県境を接する中山間地域に立地している。人口は、新見市 36,073 人（平成 17 年国勢調査）である。いずれも高齢化が顕著（高齢化率 33.7% 平成 19 年 10 月現在）で、人口が減少傾向にある過疎地域である。

一方、中国地方を縦貫する中国自動車道と山陽と山陰を結ぶ幹線鉄道である JR 伯備線が市内をとおし、岡山県南部の岡山市まで特急列車または自動車（高速道路経由）で約 1 時間、岡山空港まで自動車（高速道路経由）で約 1 時間、岡山市を經由して大阪まで約 2 時間（鉄道）、新見から大阪までの直行バスが運行されるなど、交通アクセスには比較的めぐまれている。